

『樟蔭国文学』第一号～第二号要目

第一号 (昭和三十九年一月二〇日発行)

- 定家と家隆 安田 章生
- 清慎公集・義孝集続稿 竹内美千代
- 猿蓑鑑賞―鳶羽連句 細川 馨
- 後京極摂政と三十六番相撲立詩歌 原田 芳起

- 川端康成の文長指数 中根千賀子
- 立原道造について 吉田 玲子

- 「平安時代文学語彙の研究」紹介 竹内美千代

第二号 (昭和三十九年一月二〇日発行)

- 茶道と定家 安田 章生
- 日本霊異記と中世説話集 山根 賢吉
- 翻刻書陵部蔵花園院御製(光厳院御集) 原田 芳起

- 伊東静雄について 岩田久美子

第三号 (昭和四〇年一月二〇日発行)

- 宇津保物語の中の人物

- 嵯峨院とその周辺 原田 芳起
- 和泉式部日記語彙考

- 夜のはどろに 竹内美千代
- 西行小論 野村 妙子

- 伊良子清白 木村喜代子
- 書評『日本詩歌の正統』 西畑 実

第四号 (昭和四一年一月二〇日発行)

- 一院という称呼について 山根 賢吉
- ―物語文学と歴史との連続― 原田 芳起

- 謡曲における引き歌 西畑 実
- ―信光の能を中心に― 安田 章生

- 近世和歌と定家 原田 芳起
- 与謝野寛の歌論意識 岩鼻 絹子

- ―第一次「明星」をめぐって―

- 紫式部集補註 竹内美千代

第五号 (昭和四二年一月二〇日発行)

- 宇津保物語登場人物論拾遺 原田 芳起

- 紫式部集の歌と詞書 竹内美千代

- 西行の本歌取り 西畑 実
- 書評『藤原定家研究』 八亀 師勝

第六号 (昭和四三年一月二〇日発行)

- 長篇物語におけるならびの巻の意義 原田 芳起
- ―残された問題点について― 久保 重

- 手習・夢ノ浮橋私見 西畑 実
- 信光の能と漢詩 嘉部 嘉隆

- 石橋忍月研究 (1) 中洲佐由美
- 異版日本永代蔵考

- いもせ語義弁証 原田 芳起
- ―源氏物語等の解釈に触れて―

第七号 (昭和四五年三月二〇日発行)

- 中宮ノ御統経の条について 原田 芳起
- ―源氏物語「胡蝶」ノ巻私註―

- 紫式部集補註 竹内美千代
- ―かみをかうぶりにて―

- 和泉式部日記研究の諸問題点とその整理

附 和泉式部日記歌と家集の関係一考

番外謡曲引詩考 山本 和子  
西畑 実美

石橋忍月研究ノート

『惟任日向守』論(上) 嘉部 嘉隆  
西行と芭蕉 竹島 智子

資料紹介

大西家蔵番外謡本について 西畑 実

第八号 (昭和四十六年三月二〇日発行)

男手・女手名義考 原田 芳起  
生の完成としての出家 久保 重

『御法の巻・幻の巻私見』 久保 重  
石橋忍月研究ノート

『惟任日向守』論(中) 嘉部 嘉隆  
『女殺油地獄』小考 馬淵 康子

資料紹介

大西家蔵番外謡本(二) 西畑 実

第九号 (昭和四十七年三月二〇日発行)

中古における「のたまふ」の意味  
— 敬語の意味体系の問題に触れて —

原田 芳起

夕霧の巻私見(その二) 久保 重

枕草子鑑賞—皇后定子の生涯よりみる—(一)  
九七段・一〇〇段・二七九段・二六二段

『新勅撰集』四季部の題について 山本 和子

舞姫論争の論理

— 舞姫論争についての一異見(三) — 西畑 実

方言研究の一つの試み 嘉部 嘉隆

— 大阪、東京、福島方言 — 杉藤美代子  
義太夫節 西浦 順子

『いろ』の音声学的研究 西畑 実  
資料紹介

大西家蔵番外謡本(三) 西畑 実

第一〇号

(昭和四十八年三月二〇日発行)

『なま女』の解説をめぐる問題 原田 芳起  
— 写本表記の批判的处理 —

その裳をとり給ひて 久保 重  
— 浮舟の巻私見 —

新勅撰集と本歌取り 西畑 実  
舞姫論争の論理(二)

— 舞姫論争についての一異見(四) — 嘉部 嘉隆

『花籠』、はな・かごと(サクラガ)

サクカ 動態測定による日本語の動詞式  
— アクセントの研究(その二) —

芭蕉の月の句—西行との比較において— 杉藤美代子

『とりかへばや物語』小論 竹島 智子

資料紹介 福留 歩

大西家蔵番外謡本(四) 西畑 実

第一一号 (昭和四十九年三月二〇日発行)

万葉集の「問」字の訓義をめぐる  
— 接続形態「あひだに」「ほどに」 — 原田 芳起

八の宮の遺誠と大君 久保 重  
— 総角の巻私見 —

源経信伝をめぐる 安田 純生

中世草庵文学の系譜より見た『幻住庵記』 竹島 智子

「枕草子」のひとつの魅力 岡田 廣美

資料紹介

大西家蔵番外謡本(五) 西畑 実

『門外芸術』漱石号(大10・1)目次 嘉部 嘉隆

『愛聖』有島氏追憶号(大2・18)目次 嘉部 嘉隆

第二二号

(昭和四九年九月二〇日発行)

上代の形容詞性接尾辞「じ」

―打消か類似か― 原田 芳起

藤原家隆の本歌取りに関する調査と研究(2)

―第一部 家隆の本歌取り一覽(下)― 西畑 実

石橋忍月研究余録 嘉部 嘉隆

アクセント型の聞こえのゆれと

発話のゆれ(その2)

―長崎アクセントと大阪アクセント― 杉藤美代子

中塚 裕子

高橋 美絵

阪本 玲

資料紹介

『三四郎』論への一視点

大西家蔵番外謡本(六) 西畑 実

第二三号

(昭和五〇年二〇月二〇日発行)

原田芳起博士古稀記念号

物語年立研究史の一齣 原田 芳起

―若紫の巻の時間をめぐって―

東屋の巻の左近少将の待遇法をめぐって 久保 重

紫式部と絵 竹内美千代

永保初年の源経信 安田 純生

―政長八条亭歌会をめぐって―

勅撰集と本歌取り(一) 西畑 実

徒然草における「なまめかし」について 北村 英子

芭蕉の風狂精神に関する覚書 竹島 智子

石橋忍月に関する基礎的覚書 嘉部 嘉隆

―石橋忍月研究余録(承前)―

大阪方言1拍語アクセントの

ピッチ曲線と持続時間について 杉藤美代子

井本久美子

賀茂祭詳解 杉藤美代子

其一、葵草、葵桂鬘、及び葵、桂考 山本 和子

資料紹介

大西家蔵番外謡本(七) 西畑 実

『浄瑠璃歌月丸』 大橋 正叔

紹介

北村英子著『なまめかし』 原田 芳起

第一四号

(昭和五一年九月二〇日発行)

「気尔余波受吉奴」存疑 原田 芳起

源氏物語に見る待遇法の一用法について 久保 重

経信の母について 安田 純生

松浦宮物語における

「なまめかし」について 北村 英子

勅撰集と本歌取り(2) 西畑 実

『袖貝の記』校異 谷垣伊太雄

―「太平記」のための基礎的覚書―

森鷗外文芸評論の研究(1) 嘉部 嘉隆

―「小説論」改稿の意図と方法―

ザ行・ダ行・ラ行の混同とその聴取及び

発話について 杉藤美代子

―和歌山県北部の場合― 木村 恵子

稲田 裕子

『笈の小文』一考察 安藤 桂子

第一五号

(昭和五二年一〇月八日発行)

久保 重教授古稀記念号

舌耕文学について 中村 幸彦

文学的発想における「さいはひ」

—中古物語文学に関する試論—

原田 芳起

源氏物語に見える「おはします」

「おはす」についての一考察

久保 重

—王室と外戚との関わりから—

良暹法師について

新葉和歌集と本歌取り

流布本太平記の一傾向(一)

森鷗外文学評論の研究(三)

鷗外「舞姫」研究史考(一)

日本語のアクセントが拍および音素の

持続時間に及ぼす影響について

杉藤美代子

光谷富美子

第一六号

(昭和五三年九月二十九日発行)

西畑教授追悼号

『新勅選集』の一傾向

「落ちず」「去らず」の成句について

紫の上の死をめぐる

『太平記』巻6「赤坂合戦事付

人見本間拔悪事」について

(改稿) 俳諧表現論としての本情の説

森鷗外文学評論の研究(2)

鷗外「舞姫」研究史考(3)

「生れ出づる悩み」への一視点

大宰文学における「花」

白話小説の珍訓

—「范巨卿鶏黍死生交」のばあい

近畿アクセントの発話における

喉頭制御について

鷗外樽牛対立期

「就中・加之・遮莫・拳世」の訓法小論

就中・加之・遮莫・拳世」の訓法小論

就中・加之・遮莫・拳世」の訓法小論

就中・加之・遮莫・拳世」の訓法小論

就中・加之・遮莫・拳世」の訓法小論

就中・加之・遮莫・拳世」の訓法小論

就中・加之・遮莫・拳世」の訓法小論

就中・加之・遮莫・拳世」の訓法小論

就中・加之・遮莫・拳世」の訓法小論

西畑 実

北村 英子

久保 重

谷垣伊太雄

原田 芳起

嘉部 嘉隆

嘉部 嘉隆

檀原みず

福本 彰

松田 智子

小林 祥浩

杉藤美代子

谷沢 永一

鈴木 一男

鈴木 一男

鈴木 一男

鈴木 一男

鈴木 一男

鈴木 一男

鈴木 一男

鈴木 一男

鈴木 一男

鈴木 一男

鈴木 一男

言葉と表現との間

『狭衣物語』における女性の描写について

—言葉の観点から—

古今著聞集における

「なまめかし」について

「小袖貝のゆかり」について

「太平記」尊良親王配流譚考

森鷗外文学評論の研究(四)

付・石橋忍月に関する基礎的覚書(補遺)

内田魯庵文学批評の研究

—紅葉の作品に関する評を中心に—

アクセント及び語音の、発話と

知覚について

知覚について

知覚について

知覚について

知覚について

知覚について

知覚について

知覚について

知覚について

知覚について

知覚について

知覚について

原田 芳起

北村 英子

多屋 久栄

谷垣伊太雄

嘉部 嘉隆

嘉部 嘉隆

吉田有美子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

杉藤美代子

『太平記』(日本古典文学大系)

年表索引稿 (一)

谷垣伊太雄

内田魯庵文芸批評の研究(二)

『夏木立』評管見

―魯庵・忍月の比較を中心に―

吉田有美子

森鷗外「舞姫」異本考

―縮刷本「美奈和集」の

位置づけのために

研究ノート 舞姫第二作説についての疑問

嘉部 嘉隆

没理想論争の論理

上代文献所見の間投助詞「と・に・を」小論

鈴木 一男

書評 鈴木一男教授『初期点本論攷』

小島 憲之

近畿方言におけるザ行音とダ行音の混同

―ダイナミック・パラトグラフィと

スペクトログラフによる研究―

杉藤美代子・大谷 良子

原田芳起教授著作目録

遠藤真澄・大谷良子・黒葛良子 編

第一九号

(昭和五十七年二月二十八日発行)

藤壺は変貌したか

久保 重

『後拾遺集』巻六「冬」評釈(一)

安田 純生

内田魯庵文芸批評の研究(三)

木村有美子

―忍月との比較を通じてみた構成・

視点・叙述上の特色―

語形と語義と表現と

―辞書の使命とその限界―

大阪方言における強調の音響的特徴

杉藤美代子

森鷗外小特集

「舞姫」における漢字の読み方に

関する諸問題

檀原みすず

森鷗外文芸評論の研究(四)

―「幽玄論争」の論理と方法(一)―

没理想論争の論理(二)

「贋物」横行世界での「本物」

志向の達成度

―嘉部嘉隆著『森鷗外―初期文芸評論の

論理と方法―』を読んで―

覆刻「舞姫再評」「舞姫三評」「舞姫四評」

(氣取半之丞)

「再、氣取半之丞に與ふる書」

「再、氣取半之丞に與ふる書」

嘉部 嘉隆・檀原みすず編

『太平記』(日本古典文学大系)

年表索引稿(二)

谷垣伊太雄

第二〇号

(昭和五十八年二月二〇日発行)

浮舟の死は周囲に理解されたか

久保 重

転換期の思想と文学

「後拾遺集」巻六「冬」評釈(二)

安田 純生

「舞姫」論への一視点

檀原みすず

石橋忍月に関する基礎的覚書(補遺二)

嘉部 嘉隆

内田魯庵文芸批評の研究(四)

「四つの仮名」の混同「ザ・ゼ・ヅ」

「ダ・デ・ド」の混同に関する史的考察

杉藤美代子